

## 第 2 1 次東京都観光事業審議会（第 2 回）

日時：平成 2 8 年 1 2 月 2 6 日（月）午前 1 0 時から

場所：東京都庁第一本庁舎 4 2 階特別会議室 A

午前 10 時開会

【事務局】 定刻となりましたので、第 21 次東京都観光事業審議会を開会いたします。

本日は年末のご多忙の中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めさせていただきます、東京都産業労働局観光部長の坂本でございます。

議事に入りますまでの間、しばらくの間、進行役を務めさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

これより先は、掛けさせて進めさせていただきたいと思います。

まず、初めに配付資料の確認をさせていただきますと思います。

お手元には議事次第、座席表、資料 1 設置条例、資料 2 委員名簿、資料 3「東京都観光産業振興実行プラン 2017（仮称）中間のまとめ」の概要、資料 4 はその本文でございます。

さらに、参考資料 1 諮問文、参考資料 2 観光を取り巻く現状、こちらは数字の資料集となっております。こちらをお配りしてございます。ご確認のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

続きまして、お手元にお配りしてございます資料 2 の委員名簿に沿いまして、前回の審議会以降、新たに委員にご就任をいただきました方々をご紹介します。

東京都議会議員、東京都議会自由民主党、山加朱美委員、本日はご欠席でございます。

東京都議会議員、日本共産党東京都議会議員団、清水ひで子委員でございます。

なお、名簿にはございませんが、お二方がこの間ご退任をされておりますので、口頭にてご報告させていただきます。

東京都議会議員、東京都議会自由民主党、清水孝治様、東京都議会議員、東京都議会自由民主党、舟坂ちかお様でございます。

なお、本日の出席者につきましては、座席表の配付をもってかえさせていただきます。

続きまして、都側の出席者につきましても、前回の審議会以降、人事異動がございましたので、この場を借りて改めてご紹介をさせていただきます。

東京都副知事の中西充でございます。

産業労働局長の藤田裕司でございます。

観光振興担当部長の浦崎秀行でございます。

企画課長の鈴木のり子でございます。

振興課長の若林和彦でございます。

受入環境課長の福田哲平でございます。

企画調整担当課長の川口貴史でございます。

シティセールス担当課長の前田千歳でございます。

観光施策担当課長の原郁でございます。

受入環境担当課長の加未順也でございます。

事業調整担当課長の田村弘明でございます。

そして、改めまして私は観光部長の坂本雅彦でございます。

よろしくお願い申し上げます。

それでは、この後の議事進行につきましては安島会長にお願いをしたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

**【安島会長】** それでは、これより私が進行を務めさせていただきます。

まず初めに、中西副知事から一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

**【中西副知事】** 東京都副知事の中西でございます。

委員の皆様方におかれましては、年末の大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

ご承知のとおり、観光を取り巻く環境はここ数年急速に変化いたしております。先週公表された数字によりますと、今年日本を訪れた外国人の旅行者は、11 月までの累計で約 2,200 万人に達していると、年間では 2,400 万人程度になる見通しが示されたところでございます。

また、外国人旅行者による消費額もひと頃の勢いに落ちつきは見られるものの、昨年は初めて 3 兆円を突破するなど、インバウンドの増加は裾野の広い観光関連産業を通じまして、東京の経済活動に大きな影響を及ぼすようになっております。

こうした変化に的確に対応しながら、観光施策を総合的かつ戦略的に展開していくため、都は「観光産業振興実行プラン 2017」の策定に取り組んでいるところでございます。

本日の会議におきましては、この中間のまとめをお示ししておりますので、地域や観光関連の団体、企業などを代表する委員の皆様から、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと考えているところでございます。

今回の中間のまとめにおきましては、今後の観光振興を通じまして目指すべき新たな数値目標も明らかにしてございます。新しく外国人のリピーター数や消費額について、目標値を設定するとともに、国内外からの旅行者数の目標を引き上げてございます。いずれの目標につきましても、東京都といたしまして、意欲的に施策を展開することで達成できるようなレベルとしてございます。

また、今後の観光振興に向けた具体的な施策といたしまして、観光産業を強化する取り組みや新たな視点に立った観光資源の開発、外国人旅行者や MICE の受け入れに必要な環境整備などを分野別に整理して盛り込んでおります。

本日、皆様からいただいたご意見を踏まえまして、年度内に最終的なプランの取りまとめを行いたいと考えております。

結びに当たりまして、今後とも東京の観光の振興とその充実、強化のため、お力添えを賜りますように心からお願いを申し上げまして、簡単でございますが、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

**【事務局】** 大変恐縮ですが、副知事は所用のため、これにて退席をさせていただきます

いと思います。

よろしくお願いいたします。

**【安島会長】** それでは、議事に入る前に、本審議会の公開について確認をさせていただきます。

これまで同様、本審議会を公開とさせていただくことでよろしいでしょうか。

(「異議なし」)

異議がないようですので、本審議会は公開といたします。

次に、議事録署名人の指名をいたしたいと思います。

私のほかに朝香委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」)

それでは、朝香委員、よろしくお願いいたします。

では、これより議事に入りたいと思います。

本日の議事について、事務局からご説明をお願いします。

**【事務局】** 本日の議事でございますが、先週の 21 日に公表をさせていただきました「東京都観光産業振興実行プラン 2017（仮称）中間のまとめ」、こちらに対する意見具申でございます。

意見具申の方法につきましては、この 3 月の諮問の際にご説明をさせていただいたとおり、答申書をまとめるということではなく、それぞれの委員の皆様方から、ご意見を頂戴するという形で進めさせていただきたいと考えております。

本日頂戴したご意見は、必要に応じて年度内に公表をする最終版に反映をさせていただきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**【安島会長】** それでは、事務局より改めて「東京都観光産業振興実行プラン 2017（仮称）中間のまとめ」について、ご説明をお願いしたいと思います。

資料は事前にお配りして、委員の皆様にお目通しいただいているので、ポイントを絞ってご説明いただければと思います。

**【事務局】** それでは、「東京都観光産業振興実行プラン 2017（仮称）中間のまとめ」、こちらの資料 3 と 4 を適宜開いていただきながら説明させていただきたいと思います。

資料 3 でございます。

冒頭のところに策定の意義というのが書いてございまして、これが本文で 1 ページのところに書いてある内容でございます。

そこにごございますように、観光をめぐる環境の変化に迅速かつ的確に対応するために、総合性と体系性を持った観光施策、こういったものをつくり上げていく、そのための緒としてつくられるのが今回の実行プラン 2017（仮称）というものでございます。

これは毎年度更新をすることを考えてございます。

続いて、2 ページ目の概要ですけれども、12 ページまで渡りますが、これは観光を取り巻く現状をおおむね 5 つの分野に分けて述べさせていただいてございます。

皆様方ご承知のところと思いますが、東京、さらには日本を訪れる外国人旅行者が急

増しておりまして、10年間で約2.6倍という伸びを示しております。

当然これに伴いまして、2つ目にございますように消費も拡大してまいりました。やや最近、ちょっと一段落というようなところもございますが、実勢としては非常に大きく膨らんでおります。

それと軌を一にして、宿泊面での場所の確保が大変な状態になっている、需要が増大しているという面がございます。

さらには、東京を訪れる外国人の旅行者の方々の情報収集の方法が変わっている、いわゆるICT化が進んで、スマホを片手に情報を収集するというのが、もう日常茶飯事の光景になってきているところがございます。

さらにもう一つ、都内でも多摩と島しょ部への送客の必要性、こういったものも高まっているということでございます。

続きまして、13ページ以降ですけれども、これは、これまでの取組ということなので、都の観光施策として進めてきた内容を都合6項目に分けて整理をさせていただいたという内容でございまして、こういったことを踏まえまして、ではこれからどうやっていったらいいのかということが、19ページ以降に出てくるという段取りになってございます。

19ページから、今後の取組の視点ということで、5つの視点を設定させていただいてございます。

まず1つ目が、観光の有力産業化ということでございます。いかに東京を訪れる観光客に、サービス、商品で満足をいただけるようなものを提供していけるのかというのが、1つの重要な視点になろうと思っております。

2つ目が、新しい観光資源の開発でございまして、やはり多くのお客様に、幅広いお客様にご満足いただけるような、新しい視点に立った観光資源開発が必要であろうということでございます。

さらに3点目が、魅力の発信と効果的な誘致活動。これは東京の観光のPR、これを行って、効果的にお客様の誘致につなげるということ。

4番目、そのようにして訪れてくださったお客様に対する受入環境、これが先ほどのICT化などによる情報収集の環境の向上につながります。

さらに5点目、これは過日16日に有識者会議がございまして、そこで指摘をされた内容を盛り込んだ部分でございしますが、やはり東京を挙げた取組ということで、様々な主体が連携していく必要がこれまでも増してあるだろうということで、民間事業者、国、市区町村、当然東京都庁の中も同じくでございます。これを強化していくという内容を盛り込んで、都合5つの視点としているところでございます。

そして5つ目から、22ページですけれども、目標というものを新たに設定してございます。

これはちょっと本文、恐縮ですが22ページをお開きいただきたいのですけれども、赤い太字で幾つかの目標を設定してございます。これまであった目標をレベルアップしたものもあれば、新しく設定を今回初めてしたものも出ております。

まず、訪都外国人旅行者数は 2020 年では 2,500 万人という数字を掲げております。これは、4 年後 2024 年には 3,000 万人というようなレベルにしていきたいです。さらには、外国人のリピーターの数、これは今回初めて設定をした目標でございますが、おおむね訪都外国人旅行者の 6 割という水準で、1,500 万人、1,800 万と設定をしてございます。さらには、訪都外国人のそれに伴います消費の額、これも今回新しく設定いたしました、2 兆 7,000 億円としてございます。さらに訪都国内旅行者数、これはこれまでございました。さらにもう一つ下の消費額、こちらは新しく設定いたしました、6 億人の規模で 6 兆円と 6 が 2 つ並んでいますが、こういう意欲的な数字を並べさせていただいているところでございます。

恐縮ですが、資料 3 のほうにお戻りいただきまして、そちらの 2 ページ目になります。

ここからが、本文でいうと 24 ページ、観光産業振興に向けた施策の展開ということで、6 つの分野に分けて、その内容についてご説明をしているところでございます。

まず最初の 1、消費拡大に向けた観光経営ということで、いかに経営のレベルアップ、さらには効率化を図るかということで、やはりニーズをしっかりと捉えるためのマーケティングや ICT の導入。さらには、ビッグデータを活用して、しっかりとマーケティングにつなげていく。また、宿泊場所の関係で、やはり旅館というものの稼働がまだまだでございますので、まず旅館というものを知ってもらうためのブランドとしての発信、そして旅客誘致に向けた旅館と地域との連携、人材面でいうと、マネジメント層、現場でサービス提供を担う層、その両面からの人材育成に取り組むと書いてございます。

2 つ目が、観光資源でございます。

水辺ライトアップ、ナイトライフ、水、光、夜ということですが、これを新しく活用していくという視点で、取組を書かせていただいております。

さらには、複数年に渡ってやはり観光資源は継続的、安定的に支援していく必要性についても書かせていただいております。

また、コンテンツの関係でアニメ、マンガなどの観光資源の活用、多摩・島しょにおきましては、自然、農林水産業、自然公園の活用も視野に入れた観光振興を進めていくという旨を述べさせていただいております。

3 番目が、観光プロモーション、いわゆる PR 活動ですが、今回は富裕な旅行層に東京に訪れていただくというような視点で、施策を打ち込むという形にしております。パリなどの国際的な知名度の確立した観光都市との相互観光 PR をしっかり行うという内容も込めてございます。

続いて、4 番目が MICE でございます。

こちらは、MICE の会場施設の機能強化を図るべきだということ書かせていただくと同時に、都立施設で国際会議が終わった後のレセプションをユニークベニューと呼んでおりますが、こういったものをもう少し活性化していこうというような話を書いてございます。

さらには、MICE の多摩地域展開、国際会議を東京発で立ち上げて、これを世界各地で

誘致すれば、東京が必然的に優位な立場に立てるであろうということも書かせていただいております。

5 番が、外国人旅行者の受入環境でございます。多摩地域に観光センターを開こうというような機能の整備についての話です。

情報提供に当たって、東京全体が完璧に分かるような観光アプリをつくっていく。また、緊急時や災害時における外国人旅行者の安全、安心の確保。障害者や高齢者の方々のアクセシブル・ツーリズムの充実、多様な文化や習慣に対するハラルを含めた対応、こういったことを盛り込ませていただいております。

最後 6 番目が、日本各地と連携した観光振興でございます。東北、中国、四国とやっておりますが、次のエリアを広げていこうという話や、国立の西洋美術館、こういったものも登録されましたので、こういったものを使いながら、隣接県などとの広域的な観光ルートを設定するというような話を盛り込んでいただいております。

駆け足になりましたが、資料 3 と 4 の概要、今回のプランの中間のまとめの概要、以上で私からの説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

それでは、これより議事に入りたいと思います。中間のまとめに対して、何かご意見があればお願いをしたいと思います。ご発言をされる際には、卓上のマイクのボタンを押して、ご発言をお願いしたいと思います。

では、よろしくお願いいたします。

**【朝香委員】** 東京商工会議所の朝香と申します。

今回の実行プランの中間のまとめでは、観光を取り巻く現状ですとか課題、これが的確に整理されていると思います。大変意欲的な目標も定められておりますし、今後の観光振興に必要な 6 つの戦略、これを総合的に取りまとめていると感じました。

私どもは東京商工会議所として、9 月に要望をさせていただいておりました観光事業者に対するインバウンドへの対応の支援ですとか、地域の観光資源の開発、受入環境の充実、こういった施策をしっかりと盛り込んでいただいていると、改めて感謝申し上げます。

とりわけ私ども商工会議所にとりましては、観光を有力産業として発展させていくという取り組み、この視点が書かれていることを非常に評価しております。

観光は東京の経済を牽引し、地域の活性化に寄与する重要な産業でございます。それを育て成長させていく取り組みを、東京都にご支援いただくことが重要だと考えております。

私ども東京商工会議所として、都や区市町村、観光関連の団体等々と十分な連携を図りながら、東京の観光振興に向けて、取り組みを進めてまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

ほかにご意見ございませんでしょうか。

お願いします。

**【齊藤委員】** 東京都ホテル旅館組合の齊藤でございます。

今日は、志村委員も宿泊業の中から出ていらっしゃるんですけど、出席は私だけということで、旅館、ホテル等の宿泊施設を代表してお話をさせていただきたいと思います。

特に我々のホテル旅館生活衛生同業組合というのは、生活衛生同業組合に関する法律によりまして、ホテル、旅館、それから簡易宿舎等まで、旅館業法で認められている全ての業態が我々の組合員になっているということで、そういう広い視点から申し上げなければいけないんですけども、今回の中間のまとめは、ずっとお願いしておりました宿泊施設に対する支援の充実強化に関して、よく盛り込まれてると思いますし、特に我々がもともとのルーツでございました旅館、旅館もなかなか今、洋風化、洋式化の波にのまれて、なかなか大変なんですけれども、それに対して、旅館ブランドの確立ということに関しても、書かれていると思います。

旅館ブランドといいましても、直接旅館だけやるといっても、大変だと思いますから、これから出てくる民泊についても、それから我々の中のホテルにしても、旅館のテイストを入れた意味での日本の旅館のブランド化ということについて書いてあるということに関しては、評価させていただきたいと思います。

それから、これからいろんな外国人も含めまして、いろいろなお客さんが来る中で、確かにスマートフォン等もございますけれども、我々が街のキーステーション、あるいは、お客様のコンシェルジュとして、地域の拠点として、地域社会と連携をして、様々な観光施策を進めることが盛り込まれている点は評価したいと思っています。

ただ、この前も申し上げた点が、都知事との協議の場でも申し上げたのですが、やはり 2020 年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けては、もう少し旅館の施設の改修等に関します金融面等のサポートをいただきたいと思いますと思っています。

たまたま私の父は 1964 年のオリンピックのときの我々の業界の対策委員長をやっておまして、そのときの支援よりもずっと少ないと思いますので、私も高校生でしたけれども、具体的にそんなことも、当時はいろいろサポートいただきまして、うちの父もほとんどうちに帰ってこないで、そんな仕事をしてるなというのも覚えております。

私はそんなこともなくやっておりますので、そういう支援をいただければ、我々と、それから東京をつなぐ方向でいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

**【安島会長】** ありがとうございました。

特に宿泊の問題は、宿泊客、インバウンドが大変急増しています。

大変大きな課題かなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

他にご意見ございますか。

**【新井委員】** 中間まとめで注目するところは、やはり消費をいかに拡大していくのかというところだと思っています。

22 ページのこの目標値のほうにも、訪都外国人を 2020 年には 2 倍の 2,500 万人にする。

それから、消費額を2.4倍の2兆7,000億にするという大きな目標を掲げたわけです。

そのためには、どういうふうに行動すればいいのかなというのがあるんですけども、こちらのほうにも、富裕層のほうにも働きかけをするということが45ページに書いてありますが、アメリカの富裕層向けの雑誌のコンデ・ナスト・トラベラーで、東京が1位になっているようでございます。これは、東京都のいろんな質の高さが評価された結果なのかなと思っています。ホテルの泊まる場所の質の高さであったりとか、あとは、日本の食の文化の、お寿司だとか天ぷらだとか、あとは相撲だったりとか歌舞伎、そういった日本の文化のすごく素晴らしいところの質の高さが評価されたのかなと思っていますので、そういうところをテコ入れしなくちゃいけないのかなと思っています。

一方、トリップアドバイザーという口コミランキングでは残念ながら21位ということで、全体的な口コミサイトのほうでは、まだまだ改善の余地がいろいろあるのかなというふうに思います。

あと、外国人の方が買い物をするのに、快適に買い物ができるような環境づくりが必要なのかなと思います。

例えば、キャッシュレスで決済ができるような端末の拡大だったりとか、あとは免税システムだったりとか、あとはWi-Fi機器の導入の拡大などをしていただきたいと思います。

あと、10ページに書いてあるのですが、東京都のほうに外国人旅行者が訪問した場所で、残念ながら、私が行く地元のほうの多摩地域、島しょを含むところには、外国人の方が行っていない。それを、いかに多摩地域、島しょをアピールをしていくのかなと思っています。

私の地元であれば、地元でつくっている豊田ビールだったりとか、あとは、新撰組祭りで新撰組をアピールしたりとか、いろいろとあったりするのですが、まだまだ外国人の方にアピールをしていかななくちゃいけないのかなと思っています。

あと、先ほどの齊藤さんのほう言っていましたけど、旅館の稼働率が余り伸びていないと。8ページのほうにも記載されているのですが、60%ということで、私は日本の良さを体感してもらうためには、旅館を活用するべきだなと思っています。

そのためには、和式トイレを改善したりだとか、あとは外国人向けのアプリとかで、またSNSやホームページで旅館のほうに外国人を誘導するような、そういった仕組みづくりも必要だと思っていますし、外国人の方はスマートフォンを持っていますいろいろな情報のやりとりをするので、Wi-Fi化の促進なども必要なかなと思っています。

あと最後に、ビッグデータをどんどん活用すべきなのかなと思っています。東京都であれば、首都大学東京のそういった研究をされている方と、学生だったりとか、教授だったりとか、連携をしたり、民間であれば、SNSや観光アプリ等から得られるビッグデータを活用して、外国人の旅行者の地域に関するニーズだったりとか、満足度だったり、行動や、そういった動向の分析をして、どういうふう外国人を取り込んでいくのかということ、データのところからいろいろと分析をする必要があると思います。

以上です。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

入込客数、それから消費額もやや高めの意欲的な数字になっておりまして、それを実現するために、今ご意見いただいたような、いろいろな方策を考えていきたいと思えます。どうもありがとうございました。

他に何かございますか。

どうぞ。

**【武内委員】** 日本コンベンション協会の武内と申します。

まずは施策の中の大きな一つの柱に「MICE 誘致の新たな展開」を入れていただきまして、そのことをまずは感謝申し上げます。ありがとうございます。

4 項目挙げていただいているのですけれども、まず、施設の機能強化に向けた導入に対して支援をいただけることに関して。MICE を運営しておりまして、Wi-Fi 機能が必須というのは海外の方には必ず言われますが、現状では、まだ施設内で部分のみ整備というところが多かったり、民間施設ではコスト的に導入が難しい面もありますので、これに関してはぜひ活用させていただきたいと思えます。現在は、臨時の敷設で主催者の費用負担を強いておりますが、そうすると予算が大きい MICE 案件でないとなかなか出来ない、となりますので、ぜひ進めていただければありがたいと思っております。

それからユニークベニュー。これは今、国のほうでも積極施策として打ち出していると思っております。海外の国際会議では、お城等あらゆる場所を使用したパーティを実施して、これによって話題になることもありますので、ぜひ利用促進をお願いしたいと思えます。ただ、国際会議等ですと、それが 100%誘致の決め手になるかという点、やはり違うポイントであることが多いので、その点に関しては、少しご理解いただく必要もあるかと思えます。

一方でオリンピック・パラリンピック等にも関連しますが、今、非常によく聞きますのが、民間企業の利用ニーズについてです。行政のほうからですと、もっと利用規制を緩和するという考え方になるかと思うのですが、Win-Win の観点から言えば、利用料を徴収することで、それを維持費として活用いただければ、オリンピック・パラリンピックで活用したいと言っている民間企業はこれを使うことができますし、評判を聞いてさらにニーズが高まるのではないかと。これは、MPI の山本会長のほうがご専門だと思います。

多摩地区等へ MICE の開催エリアをより広げていこうという活動をされるということをお伺いしております。都心で開催していたものをそのまま持っていくというのはなかなか難しいだろうというふうに思えますので、即効性を期待するというよりも、ぜひ継続して長く、そういった施策で東京都全体にお金が落ちるといいですか、開催が増えるというふうなご活動にいただければありがたいと思えます。

4 点目、国際会議等での立ち上げの支援についての企画を出していただいておりますが、これもまたありがとうございます。

統計上、件数として挙げるには一定規模を満たす必要がある等ハードルが高いため、

立ち上げたところで、なかなかその規模までに至る目標を立てるのは難しいなというのが率直な感想としてございます。ぜひ、小さく産んで大きく育てるという発想で、支援による効果が表に出るには時間がかかるということをご理解いただき、少し基準の緩和をご検討いただけないかとお願いしたいと思います。

あわせて、国内で今やっておりますイベントとか会議、それから展示会、そういった MICE 案件が、国際化に向けて、海外からの招致誘客、参加者増加を目指しているのも、全くの立ち上げではないですが、そういったものを国際会議化していくといえますか、国際イベント化していくということについても、もう少し枠を広げたお考えを検討いただけないかというのがございます。

以上です。

**【安島会長】** いろいろご意見ありがとうございます。

消費拡大に向けて、MICE の果たす役割は大変大きいなと思っております。今回もいろんな体制整備とかについても、新しい提案をしております、ぜひ MICE をこれからも推進をしていきたいと思っております。

他にございますか。

**【山本委員】** すみません。MPI の山本です。

今、ちょうど武内社長のほうからも MICE のことが出たので、ここで続けてお話ししたほうが分かり易いかなと思いましたが、申しわけないんですけれども、今、お話しさせていただければと思います。

この施策の 51 ページにあります、最初、先ほどお話しされた受入環境の整備なのですが、やはり都がこちらを、今まで民間だけで行うことが多かった難しいインフラ整備というのを、やはり都が行ってくださるというのは、非常に MICE にとってはアドバンテージだと思っています。

やはり、都が持っている例えば都道とか区道とか民間、それぞれがインフラ整備、また Wi-Fi の環境整備をやっているとしても、ほかの地域に行っちゃったとならなくなってしまうとか、そういったことが今まで起きていますので、その部分を都が全体にまたがって、Wi-Fi の環境整備をしていただけるということなので、非常に高く評価できることではないかと思っています。

また、51 ページの一番上です。官民一体の MICE 連携推進協議会の設置ということで、こちらはぜひやっていただきたいと思っています。

7 ページを見ていただければ分かるのですが、7 ページの下のところ、2015 年、ソウルの国際会議の件数が急に伸びております。これは何でかと思ったところ、どうやらソウルでは、ソウル MICE アライアンスという官民一体の連携の組織を、ソウル市と韓国観光公社が一緒になってつくったようです。

私も調べてみたら、現在 230 もの団体が加盟しているんですね。それはコンベンションセンターが 6、ホテルが 37、そしてユニークベニューが 50、ここが大きく伸びているところだと思います。あと PC を 19、トランスポーターション、移送関係 15、旅行

会社 39、エンターテインメントの会社 20、MICE のサービスプロバイダー、業者の方 26、ショッピング 10、ローカルのアソシエーションが 8 ということです。

今までそういった組織がないので、ここが本当に束ねていける官民連携のものができると、国際会議の数、MICE の数というのは一気に進んでいくんじゃないかなと思います。

なぜかという、今朝もこういう話があったのですが、私も来年 10 月の少し VIP の案件を受けています。ちょうど土日、ウエディングにかかわるということで、ホテルさんはウエディングをとりたい、でも、MICE 全体、このイベント全体を考えたときは、MICE の売り上げのほうはかなり高いんですね。でも、やっぱり今はとれない。もしもホテルの方がみんな一緒になって、日本のホテルだけでなく、外資系のホテルも一緒になって、MICE の委員会に入っていただくと、もう少し MICE がとりやすくなってくるのではないかと思います。

あと、ユニークベニューですけれども、今回、都立の美術館とか博物館とか、そういったところ開放していただけるという方向に行っているということで、非常にうれしく思います。

私も今まで何度かトライしてきましたけれども、実施には至りませんでした。特に、昨年から今年にかけては、江戸東京博物館で 3 回、都庁の観光部の方にも掛け合ったり、いろんなほうで打診しましたけれども、やはり開催に至ることができませんでした。でも外国人からすると、ああいったそのままテーマになっている場所なので、プラスアルファの費用をかけなくても、そこで非常にユニークなイベントができるということで、評価が高いんですね。

今回、来年の 10 月の案件でも、とにかく今までやったことがないようなユニークな場所でパーティをやってくれと言われてしています。そのくらいニーズがあるので、ぜひこういった動きはプランナーとしてもありがたいですし、今後もぜひ開放を順調に進めていただければと思っています。

あと、最後ですけれども、この支援、報奨旅行等の支援の強化ということで、いろんなアトラクションを提案していただけるということでした。

特に和太鼓というのが、私も使いましたけれども、非常にインパクトがあります。余り長いのは好まれませんが、こういったものを一つのメニューの中に入れていただけるというのは、非常にありがたいと思いました。

ありがとうございました。

**【安島会長】** ありがとうございました。

MICE 連携推進協議会、大変、これ期待する声が大きいかと思います。

それでは、どうぞ。

**【中屋委員】** 都議会自由民主党の中屋文孝でございます。

この「東京都観光産業振興実行プラン 2017」、非常にきめ細かな内容になっていると思います、お疲れ様でしたと申し上げたいと思いますが、その中で、坂本部長も先ほど言っていましたけれども、今後の取組の視点の（5）の東京の様々な主体の連携強化、

この中の最後のくだりがお話に出ていましたけれども、都庁内の各局が横断的な連携を図って、都庁挙げての取り組みを進めていくことが重要であるとして書いてありますけれども、これは本当にそのとおりでありまして、縦割りで今までもやりたいことがあっても、なかなか各局が協力しないとできないというようなことで、実現できなかったこともたくさんあります。

例えば、いろいろとありますけれども、この中で申し上げれば、水辺の活用の舟運なんかは特に代表的なものだと思いますけれども、これは建設局等々の協力がなくなかなかできなかったことですから、ようやく動き始めたということは大変素晴らしいことで、さらにもう一步踏み込んでいくためには、さらにいろんな横断的な協力が必要だろうと、こう思っています。

それから、あともう一つ、今、MICE の話がたくさん出ておりますけれども、このプランをつくり始めたときには、まだ IR の話が棚上げ状態だったと思いますが、急転直下で、急に国会のほうも動き出しまして、今後実行プラン、実施法に今度取り組むということになってきますと、やはり東京の中の観光において、IR というのは、これは大変重要になってくるだろうというふうに思いますので、いずれこのプランを作成していくときに、MICE という、その名称の中に、IR という、こういう名称も含めて、いろんなプランを立てたほうが有効的だろうというふうに私は思っております。

以上です。

**【安島会長】** どうもありがとうございます。

縦割りを解消するということで、おっしゃったように、舟運なんかは非常に大きな期待をしておりますが、都だけではなくて、国とか区のほうでもいろいろと実験をされておられますので、ぜひいろんなところと連携されていていただきたいと思います。

それから、IR の話はこれからぜひ検討する大きなテーマかと思っています。

どうもありがとうございます。

**【清水委員】** 共産党の清水です。よろしくお願いします。

今回の内容に多摩地域のことがかかなりいろいろ盛り込まれているということは評価したいと思います。

八王子出身ですけれども、特に多摩地域に、外国人の方にしろ、日本人の方にしろ、来ていただくためには、まずアクセスがどうしてもよいところでない、訪れないということで、例えば、八王子の高尾山であれば、本当に新宿から電車 1 本で来られますので、今、外国人の方も含めて、たくさん来られているというようなことを聞いているんですね。ですから、そういうアクセスをより充実させるということが多摩地域にとって重要ではないかと思っています。

それからもう一つは、観光地の環境というか、トイレの洋式化ということ、この宿泊地の洋式化ということ言われているんですけれども、観光地のトイレの充実ということですね。それが特に必要ではないかなと日ごろ感じているんですけれども、高尾山であればすごく素晴らしいものをつくっていただいて、それもあって、多くの観光客が来

ているということがあるんですけども、高尾山から一旦足を延ばして、お隣の神奈川県陣馬山というところがあるんですけども、そこの方々から、毎年のようにトイレの要請が出てくるんですね。頂上は、神奈川県側と、東京都側と、2 つに分かれているんですけども、東京都のほうがトイレを管理しているようなんですけども、その要望がいろいろ私のほうにも届いているということで、これは環境局の自然環境部、ここが担当しているということで、先ほども他の方が言われましたけれども、横断的な支援ということでは、財政支援も含めて、村や、それから市の支援も含めて、より実効性ある中身にしていきたいということの一つ要望しておきたいと思います。

以上です。

【安島会長】 ありがとうございます。

多摩は、高尾山にはたくさんの外国人もお見えになっているみたいですし、MICE とかも有望かと思しますので、そのあたりを中心に拡大をしていければと思っております。

はい、どうぞ。

【山崎委員】 江東区長の山崎でございますが、全部読ませていただいて、非常に明るい将来、これはいいなという希望を持てるようなプランがいろいろ書き込まれていて、大変うれしく思っております。

幾つか申し上げたいことはあるんですが、余り時間がないので絞ってお話ししますが、受入体制の充実、受入環境の充実というところで、民泊のことが触れられていません。これは非常に大きな問題でありまして、都心あたりですと、民泊をしたいというのと、しないしてほしいという意見が分かれておりますが、多摩・島しょ、あるいは東京の外周部ですと、一般の旅館・ホテルの稼働率がまだまだ低いんですね。

そういった意味では、多摩とか島しょのホテル・旅館がもういっぱいだよと、泊まる場所ないじゃないかということになれば、民泊という話が進んでいくべきだと思うのですが、今の段階で、都心はいっぱいでも近郊はそうではないと思います。

現在、民泊は国のほうで推進しようということで、規制緩和を進めて、これから来年度、法律をつくるようでございますが、その権限を都道府県に与えるという方向なんですね。ところが、東京のことだけ考えましても、東京、区市町村 62 の区市町村があって、それぞれの地域がみんな事情が違いますね。大田区は飛行場があるから民泊進めたいという意向もあるようですし、我々のところは住宅が多いので、民泊どうかなという意見があります。

私は今年の 6 月に、民泊に対する条例をつくりまして、民泊を厳しく、私自身は厳しくすべきだというふうに思っていますので、もし民泊をやろうとするのであれば、民泊をする周囲全部に説明をなささいという条例をつくりました。それから、フロントを設けなさい。それから、緊急の連絡先を設けなさい、あるいは名簿をつくりなさい、宿泊名簿ですね。いろいろ非常に厳しいことをやりました。

それはなぜかといいますと、我々区市町村長というのは、国は、経済の発展とか防衛とか外交とか、いろいろありますけれども、我々は、住民の安心安全を第一に考えるの

が区市町村長です。

我々、住んでいる人たちを守らなければならない。その場合に、わけわからずに外国人が来て、民泊をして、環境を悪化させて、あるいは場合によっては悪いウイルスを持ち込まれるとか、犯罪とかいろんなことがありますから、私は厳しく対応していこうと思って条例をつくりました。ところが今月に入って、民泊をワンルームマンションを一つ買った弁護士さんが、厳しいものだから、裁判に訴えてきたんです。これは大きな問題になってくると思うんですが、国の方針に逆行していると、江東区は。ということで、私名で訴えられているんですね、今。つい先々週ですけども。

こういう問題を考えますと、これから東京都全体としても権限を一つは都道府県ではなくて、区市町村に権限を与えるべきだということが一つ、やはり東京都としても考えてもらいたいということですね。

それぞれの区市町村の事情が違いますので、賛成する区長さんもいらっしゃるんですが、私はノーなんです。

そのように、対応がそれぞれの地域によって変わるので、ぜひこれは都として、このプランの中に入れるというか、そこまでいかないんでしょうけれども、ぜひその辺の議論もしていきませんか、受入環境の充実といいながら、民泊について触れられていないと、今はいいですが、もう来年あたりはそれじゃ対応できませんよという話になってくると思うんですね。その点をぜひ、これから議論をしていただきたいということ。

それから、もう一つ抜けているのは、先ほど中屋先生のおっしゃった IR です。これは大変大きな、観光産業にとっての大事な大事なものです。こういったことの方向性というか、都はどうするの。皆さん聞かれていますよ。大阪はやろうと言ってるよ、東京はどうなんですかと、私は随分聞かれます。IR という言葉と同時にカジノと出てくるんですけども、どうなんですかということも。

ですから、そういった方向性も検討の中に書き込んでいきませんか、何か不足しているような感じがいたしますので、ぜひそれも含めて、民泊と両方をこの議論の中に入れていくべきだというふうに思いますので、ぜひ会長さんにはお願いしたいと思います。

**【安島会長】** 最近、いろいろ次々に新しい事態とか、そういうものが登場してきますので、ぜひ、検討すべき喫緊の課題だというふうに思っております。ありがとうございます。

**【邑上委員】** 武蔵野市長の邑上と申します。

このプランは、まとめられていて大変素晴らしいのではないかと思います。観光産業の振興という視点からすれば、確かにインバウンドということは、これからも主眼となつてとらえていくことが大切だと思っています。

ただ、そもそも観光というのは何のためにあるかということを考えると、よく私ども市民に言うのですが、都市観光というのがあったとしても、市民が楽しまなければ、いけないのではないかと。つまり、市民が豊かな暮らしや、生活のための観光なのだというのを、もう少しウエイトを置くべきではないかと。

東京都に対しましても、したがって同じように考えれば、東京都民たるものが豊かな生活を受けられるような、実現できるような、そんな観光でなければいけないんじゃないかというふうに思います。

多くの方は、都内の色々な場所を回られていますけれども、なかなか東京都内の資源を十分にまだまだ存じ上げない方も多いんじゃないかというふうに思っています。東京都も素晴らしい観光資源がありますから、江東区の臨海部も、奥多摩の自然地も、大いに都民に行っていただきたいと思うので、そのような取り組みをまず第一にすることによって、もてなす心も育まれるんじゃないかというふうに思います。もちろん外国人の方を受け入れるという様々な施策も大切なのですが、その前提として、我々が自分たちのまちの魅力をもっと知るような機会を増やしていくべきではないかなというふうに思っています。

その意味では、子供たちのいろんな社会見学から始まって、一般の我々住民がほかの自治体を回るだとか、そういう取り組みもぜひこれから、インバウンドなる前提として強調してもいいのかなというふうに思っています。

以上です。

**【安島会長】** ありがとうございます。あまりにもインバウンドが急激に増えて、その話題ばかりになってしまったような印象があるかもしれませんが、国内、都民の観光ということもぜひ盛り込んでいきたいと思います。

**【河村委員】** 奥多摩町長の河村でございます。

東京都の町村会のいろんな部分について、若干お話をさせていただきたいと思いますが、今回の全体的な観光の振興策につきましては、非常に意欲的な部分が含まれておりますので、ありがたいなというふうに思います。

特に、先ほど中尾委員からおっしゃられましたように、ややもすると、この中にオール都庁でやらなきゃならないことがたくさん含まれております。

例えば、多摩島しょ地域の振興でありますけれども、この中で、私どもの部分で言いますと、先ほど高尾の話が出ましたけれども、この観光審議会の中でも、多摩地域の中で、檜原や奥多摩、西多摩地域、あるいは雲取周辺を含めて、先生方に 1 回そういうところを見てほしい。高尾だけがクローズアップされて、それではいかなものかなという発言をさせてもらいました。

と申し上げますのは、東京都には 13 の町村がございます。そのうち島が 9 町村、内陸部の西多摩地域が 4 町村。その島と 4 町村は観光が大事なんです。

それは何で大事かということ、自然をたくさん持っているけれども、そういう意味では、雇用の確保というのがなかなかできていない。従来は山林で仕事をしていた、いろんなことがありましたけれども、今、自分たちの島も含めた西多摩地域については、自然を生かした観光産業の振興を、今やっております。

私のところでもやっております。それは、その地域の雇用の問題、あるいは地域の活性化に非常に深くかかわっております。

そういう点で、例えば私どもの町のいろんなことで申し上げますと、今、昨年でございますけれども、町独自に、5 年間で日本一きれいなトイレにしようと。そういうのは、40 カ所公衆トイレがあります。しかし、その公衆トイレに、お客さんに来てもらうときに、汚くてはなかなか次に来てもらえないのではないかとということで、そういう部分の計画をつくっております。これを今回、いろんな部分で支援していただけるのではないかとというふうに、大変期待しているところでございますけれども、そういう部分、あるいは、もう一方では、自然がたくさんありますから、もう数年、五、六年前でございますけれども、昔は森林浴といっていたものを、森林セラピー事業を始めております。これは、町独自に財団を設けて、少しずつですけれども、お客さんが増えていただくような部分を含めて、今、それに取り組んでおります。

このように、13 の小さな町村は、自分のところの活性化のために何かをしようという部分を一生懸命やっておりますので、そういうところに対する支援というのをもう少し見てもらいたいなど。

特に、今回は焼酎特区の問題、これはマスコミに報道されましたけれども、青ヶ島の焼酎、あるいは檜原村、それから御蔵島で焼酎特区にしてもらって、自分たちのところで少量しかできない焼酎を税制改正の中に入れていただきましたので、来年度国会の中でその法律ができれば、自分のところでもその焼酎ができる、じゃがいも焼酎ができるというふうなことになってきました。そういうふうなことを取り組んでいる部分がございますので、そうしないと、13 の町村は実は生き残れないんです。生き残れないというのは、その地域の自然を守る、あるいは活性化をするために、そういう一つ一つのことをやらないと守れない。

もちろん東京都全体の観光が大きくなって、その部分のお客さんがその地域に来ていただく。これは大変ありがたいことで、現実にはもう来ています。外国人の方も来ております。

したがいまして、私どもの青梅線に 5 駅ありますけれども、そこにこの 4 月から Wi-Fi を入れました。それから 4 カ国語の PR の地図も作りました。これはなかなか、小さな町村がそういうものに手を広げていくというのは大変なことでありますから、この観光審議会の中間報告を踏まえた部分で、東京都全体で取り組んでいただくというのはもう大歓迎でございます、ぜひそういう部分を積極的に予算化して、あるいは各局横断的にやる部分についてもやっていただきたい。

特に、今、登山に来るお客さんが国内外から増えています。奥多摩の駅のこの 5 年、6 年間の乗降客は、毎年 1,000 人ずつ増えています。1,000 人というのは、スケールメリットは小さいかもしれないけれども、私の町にとっては非常に大きなことであります。

そのときに問題なのが、自然公園の活用なんです。うちの町は、全体が秩父多摩甲斐国立公園、その中に東京都の自然公園があります。そういう部分の登山道の整備がもう二十数年来、非常におざなりになっています。

そういう点をもう一度しっかり見ていただいて、当時建設局で管理していたときには、

担当の係がありました。環境局になったらほとんどやっておりません。ほぼ毎年要望して、安全のために、そういうところを補修したり、いろいろなことをしていただきたいということがありますがけれども、そういうところにもう少しきっちり目を向けていただいて、全体の観光審議会の中間報告ができた段階では、実施計画あるいは予算化をきっちりやっていただきたいというお願いをしておきたいと思います。

【安島会長】 ありがとうございます。

多摩・島しょ部につきましては、より自然を生かしたような観光政策をきめ細かく考えていく必要があるのかなと思いました。

どうもありがとうございます。

では、中澤さん。

【中澤委員】 バリアフリーカンパニーの中澤と申します。

こちらの委員会にはもう相当長く参加させていただいているのですが、今、一番注目されているのが、2020 年のオリンピック・パラリンピック、この大きなイベントに向けて、ここに今回紹介されているアクセシブル・ツーリズム、これは大きな意味合いを持つてくる段階になったのかなと思います。

これについてはもう既に国のほうでユニバーサルツーリズムという形で、今年 4 月から始まった障害者差別解消法、これに基づいて、全ての事業者に関係するものですから、非常に大きな事業として展開しなければいけないものだとということで、みんな認識して動いているんですけれども、今回書いてある内容はちょっと迫力がないなど。具体的に東京都として何を展開できるか、何をやったらいいのかというのがあまり見えていない、そんな感じがします。

私はずっと都民で、ずっと生活もここですしているんですけれども、やはり海外の各都市、これもいろいろな国に私も行っています。最近もニューヨークに行ってきましたけれども、日本はまだまだ遅れています。

というのは、例えば今、これもだんだん車の台数を慌てて増やしているところなんです。成田空港とかそういうところからのリムジンバスがありますね。あれで車椅子で乗れるバスは 1 台しかないんですよ。世界中の空港でそういう空港はないです。どんな、結構田舎の空港に行ってもみんなあります。

タクシーも同じで、ニューヨークなんかは、車椅子もスロープをつければ乗れるというタクシーがもう既に何百台とあります。普通に手を挙げれば停まります。日本はないです。あっても、今多分 50 台ぐらいでしょうか。だから、普通に流すこともできないし、駅なんかの駐車スペースはあるけれども、入る車はないという、そんな現状になってしまっている問題。

それから、例えば公共交通機関は、日本は、特に東京は、バスや電車やこういうものについての車両の整備なんかは大分欧米に近づいてきたんですけれども、ただ一番の問題はやはり市民の対応なんです。

実はそのスペースがあっても、関係ない人がずっと使っている状態で、もちろん誰も

使わないときはいいんですけれども、私が乗って行ってもどかないというのが日本の国の特徴で、欧米の都市の場合は、みんな普段は使っていますけれども、何らかの不自由な人が来れば、必ずみんな当たり前にときます。

エレベーターの場合も、必ずまず降りて、不自由な人を乗せてから自分たちも乗る。それは東京に来て同じような行動をしています。

そういう中を見ていると、これからオリンピック、2020 年に向けて、ますます増加していくであろうインバウンドを考えた場合に、恥ずかしい結果になるなというふうに見ています。

その意味で、具体的にシンポジウムという意味ではなくて、多分日本の国民は、障害のある人と高齢者の方でも、不自由だと思った人に対してどう対応していいかわからないという国民、市民が多いんですね。だから、具体的にエレベーターが来たときはこうしましょうというのを、日本の場合はそこまで細かく案内をしないと変わらないんだろうな、そんなふうに思っています。

もちろん、2020 年まであと 4 年しかないので、やはり具体的な、もっとシンポジウム、もっと具体的な講習会とか、これはさっきの障害者差別解消法のこともありますけれども、海外ではこの法律はもう実は障害者差別禁止法ということで、マストで義務化して展開されているんです。

そういう国で暮らしている人たちが日本に来ると、そういう対応が受けられないということで、差を一番感じていると思うんです。そういう意味でも、早急にこのあたり、具体的な施策を打っていかないと間に合わないと思っています。

その意味で、ぜひこのあたりをもうちょっと充実した内容にしていいただければありがたいなと思います。

以上です。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

前にエレベーター等は世界の一流の水準に近づいて来たと伺いましたけれども、まだいろいろなソフトな部分、それからバスとかリムジンとか、そういうところがまだ大分遅れているようでございますので、このあたりはオリンピック・パラリンピックを機会に、レガシーとして残していくという意味でも、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

はい、ではどうぞ。

**【蜷川委員】** 日本政府観光局、JNTO の蜷川でございます。

ご存じのとおり、今年の 3 月に国全体の新たな目標ということで、「明日の日本を支える観光ビジョン」というのが制定されまして、2020 年までに 4,000 万人、インバウンドの消費額 8 兆円という新たな目標が設定されたわけですが、その中でいろいろな目標が盛り込まれております。そういった同じ方向性に沿って、今回の東京都さんの「観光産業振興実行プラン」の中でも、いろいろなやるべき内容がしっかり盛り込まれているんじゃないかなという印象を持っております。

その中でも最後の方でございます、日本各地と連携した観光振興といったところに注

目しているわけですが、やはりこの急増するインバウンドの恩恵をできる限り地方にもたらしていくという意味での地方創生という観点で、地方にどんどんさらにインバウンドのお客さんを誘客していかなければいけないといった方向性も国の方で示されているわけでありまして、そんな中で東京都さんが、単に東京だけでなく、東京と東北であったり、あるいは中国・四国地方であったり、あるいはさらにその対象エリアを拡大するというのが今回盛り込まれているということで、地方としっかり連携されていくというのは非常に良いことだというふうに考えております。

インバウンドのお客さんのリピーター化がどんどん進んでいくわけですが、リピーターになればなるほど、これまでの東京から大阪までのゴールデンルート以外の地方にどんどん来られるという結果が調査からも明らかになっておりまして、5回目、6回目ぐらいになりますと、57%、58%ぐらいの割合でゴールデンルート以外の地方に訪れるというような調査結果も出ているということから、今後、LCCなどの供給もどんどん地方の路線が充実する中で、地方に入って、地方からそのまま出ていくと、地方イン、地方アウトといったような流れも出てくる中で、東京にもしっかり寄っていただくためには、最初に東京に寄っていただく、あるいは帰りに東京に寄っていただくというような意味合いも含めて、東京と地方がしっかり連携をしていくといった方向性が重要じゃないかというふうに考えております。

先ほどから多摩地区の話も出ておりますけれども、多摩地区にもそういう意味では東京に無いいろいろな田園風景云々といった観光資源、自然を生かした観光資源といったものがあるかと思うので、そういったところも東京と合わせて、しっかり海外の方々に売り込んでいく必要があるのかなと私も感じております。

それから国全体で4,000万人、それから8兆円という目標なわけですが、今回東京都さんでも新たに2,500万人、それから2.7兆円というインバウンド消費の目標も掲げられていると。

国全体の4,000万人、8兆円というのは、1人20万円使ってほしいという意味で8兆円という目標がつくられているわけですが、東京都さんの計画でも4,000万人のうちの6割ぐらいが東京に来てほしい、それから多分11万円ぐらいのお金を東京に落としてほしいという意味で、2.7兆円という目標が掲げられているかと思っておりますけれども、そういった意味でもこれまで8割強を占めるアジアの方々だけではなくて、今回計画に盛り込まれております欧米とかオーストラリア、それから富裕層にしっかり来ていただくといった点は、より滞在期間も長く、たくさんお金も落としていただけるような、そういった方々をしっかりターゲットとして東京に呼び込んでいくといったような考え方は非常にまた重要であろうというふうに考えておりますので、そのあたりは引き続きしっかり取り組んでいただければありがたいと思っております。

以上です。

**【安島会長】** ありがとうございます。

ちょっと高めな目標ですが、しっかりと実現していきたいと思っております。

**【五十嵐副会長】** 皆さん、お疲れさまです。

JTB グループでインバウンドを担当しております五十嵐と申します。私からも幾つかお話をさせていただければと思います。

前回のこの場でも申し上げたように、四、五年前から考えると隔世の感がある訪日インバウンド環境となっています。本当に様々な方が色々な知恵を絞って、これだけの高い目標に向かっていらっしゃり、加えて東京都の新たな実行プラン自体も非常に意欲的、具体的で、我々事業者としても、本当に励まされると同時に、力強い支援になるだろうと思い、非常に期待しております。

一方で、この実行計画自体は 2017 年のみとなっています。2020 年、2024 年と数字自体は目標として設定されてはいるものの、そこに至るまでに具体的に、何をいつまでどうやってといったところも実行プランを伴う計画として落とし込まれていくことを期待したいと思います。個別の施策は単年度の失敗経験のみで安易に終わることがないように、長い目でじっくり取り組むことは一体何で、とりあえずやってみるものは一体何で、という整理も必要なのではないかと思います。

一方では、その土台となるブランドですね。東京自体をどんなブランドとして売り込みたいのかを改めてもう一回整理する必要があると思います。「&TOKYO」というマークがいろいろ議論になっていますが、あれはどう売り込むかという手法としての「ブランディング」であって、改めて売り込むべき東京の価値について、島しょ部、多摩地区といった地域の魅力も含めて、明言化していく必要があると思います。

そのためにも 21 ページに (5) 5 つ目の視点のところに、東京の様々な主体の連携強化として、ノウハウを持つ民間事業者や地域で活動する団体、緊密に連携することが盛り込まれたことは、非常に評価したいと思っています。また、中屋先生がおっしゃっていただいたように都庁内の連携というのは、ぜひとも進めていただきたい。例えば施策の「観光資源の魅力開発」では、舟運のようなコンテンツの開発に伴って、それを面としてどう回っていただくのかという、交通インフラの連携が有効になってきます。ストーリーのあるまちづくり、再び訪問したい価値をどうつくっていくのかといったときに、道路行政や、建設行政などとの横の連携も非常に重要になってきます。東京自体を面として、テーマパークとして見せていくような取り組みができていければいいのかなと。そのためにもぜひ海外の事例も学んでいただければと思っています。

また、島しょ部や多摩の取組に関して言うと、大都市と同じコンテンツを期待するのは、当然違うと思いますので、例えば瀬戸内の小さな島に、たくさんの猫を見に来るアジア人が引きも切らないとか、新潟の農村部の中で、アートな空間がいきなり出現し、そこに大量の欧米人が訪れているといったような取組なども、ぜひ外部の知見を参考にしながら、作り込みされていくことを期待したいと思っています。

2020 年に 2,500 万人という数字は、2015 年のほぼ 2 倍以上です。我々事業者は、2015 年本当に宿泊で苦勞しました。宿泊施設でいうと、300 室のホテルが 10 個新たにできても、50 万人しか収容できないといったときに、どうやってこの 2,500 万人を受け入れて

いくつかというブレイクダウンが必要だと思います。これらは先ほどの民泊の課題も含めて、様々に具体的なことをブレイクダウンしながら、どこのマーケットをどれだけ受け入れていくかということも含めて施策を練っていく必要があると思います。

あと富裕層ですね。こちらは消費額をアップさせる上でも非常に重要なマーケットですし、世界のオピニオンリーダーをつくるという点でも、有望な市場です。単にプロモーションのところにだけ富裕層という言葉が踊っていますが、実は、この方たちこそ受入環境がすごく重要だと思います。特に MICE という、国際会議だけ思い浮かべられがちですが、グローバル企業に限って言うと、インセンティブと呼ばれる旅行形態が日本で開催される例はまだまだ少ないのが現状です。特に 2019 年、2020 年はラグビーのワールドカップ、それからオリパラと、世界の様々なスポンサーに招待された方々がたくさん東京にいらっしゃいます。そういった方たちに、どういう受け入れ環境を提供するかといったときには、施設だけの話ではなくて、ガイドの質なんかも非常に重要になってくると思います。この方たちがいかにクオリティの高いガイドを要望しているかということは日々感じておりますが、ベテランの方々はどんどん年老いていく。一方で、ガイドの規制緩和によりボランティアガイドなどが活躍しやすい土壌が構築されることは非常にいいことだとは思いますが、優れた能力を持って、確実に日本の文化を伝えられる質の向上といったものも両輪で考えていく必要があると思います。MICE のユニークベニューの取組は、まさに待ちに待った取り組みですので、ぜひ実効性のあるものにしていただきたいと思います。今、動いているユニークベニューのプロジェクトの展開も少し見せていただきましたが、非常に具体性に富んでいて、その内容も、今回の実行プランの中に記載していければいいのではと考えます。

ぜひ我々民間あるいは行政、それから学者の皆様、また、議員の皆様、様々な知見の方を活用しながら、これらを具体的に実効性のあるものにしていければいいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

**【安島会長】** 他に何かございますか。

**【高橋委員】** JR 東日本の高橋でございます。

この施策、実行プランの中で、前々から東京都は素晴らしいなと思っているのは、6 番目の各地との連携でございまして、通常、日本中の全ての自治体がこの種の観光戦略を書けば、当然我が県、我が町、我が村へというところに留まるんですけども、東京都のこの戦略は今までも一貫通貫して、こういった各地と連携しようということを書いていただいております。私ども鉄道事業者としても、ネットワークビジネスですから、特に都道府県のみならず、全てを超えて連携をして、列車は走っております。都内にたくさん列車は走っておりますけれども、山手線と中央線と青梅線を除けば、全ての列車は東京都を越えて隣の県まで走っております。こういった視点で東京と連携を図るということを強化されるのは、大変いいことだと思っております。

先ほどから宿泊のキャパシティのことがございますけれども、多分東京は今、13 万ルームぐらいだと思いますけれども、多摩と島も入れまして、東北 6 県も同じ 13 万ルーム

ぐらいですので、あふれたお客様をどうやってお互い行き来するかということによって、実際、東京のポテンシャルは上がると。東京は素晴らしいポテンシャルがありますけれども、だからといって、毎日雪が降るわけではございませんし、樹氷や温泉がふんだんに湧いているわけではございませんから、東京に泊まって、あちこちに行きましょうということをやることによって、結果的に東京の魅力が上がる。

今、私ども、新幹線に乗れば 4 時間で北海道まで行ってしまいますので、そういった意味では、東京の懐の広さをどうやって各地域に広められるかということが鍵だと思います。なかなか、逆に東京都以外の皆様とお話をしても、東京都がこういう戦略で各地と連携をしたがっているということを言っても、むしろ東京以外の都道府県は、東京が全て持っていつてしまうということばかりおっしゃるので、この戦略を、なかなか難しいことだと思いますが、東京都としてこういうことをやろうということ、東京都以外の地域の皆様に分かっていただくということも結構重要ではないかなと思います。

実際、ニューヨークに行けば、皆さんナイアガラ滝、カナダですけれども、ここに行きますし、フランスのパリに行けば、モンサンミッシェルやロワールというのは県は全く別ですけれども、大多数の方がパリだけでなくその外に行かれて、どこに行ってきたのと聞けばみんなパリに行ってきたというふうに言うという、これがある意味、遠くから行く観光のモデルでございまして、そういった意味では、私どものようなネットワークを預かる鉄道事業者としては、もちろん東京都のゲートウェイの機能は未来永劫続きますので、これといかにどういう地域と結びつけるかということは、結果的に東京の魅力のアップにつながるという視点で、引き続きご協力をしていきたいというふうに思います。

それから、1 点、この施策の中で、やや書きつづりが無いなと思って拝見していますのは、地域の普通に都民の観光に余り関係のない皆様のかかわり合いの部分が、若干書きつづりが無いというふうに思って拝見しておりました。

東京というのは、多くの方がお住まいになり、あるいは仕事をする場所ですので、なかなか都民の皆さん自身が観光客にどうするかという視点が、ほかの地域と比べてやはり足りないんだなというふうに思っています。先ほど中澤さんがおっしゃられたことにもつながるんですけど、私どもでも通勤、通学で日々ご利用いただいている朝の列車にこれだけ外国人の方が一緒に乗るというシチュエーションは、10 年前はございませんでした。

今、私ども社員には、掲示物も大事なんですけども、どちらかという、駅で地図を見て困っている、あるいはぼかんとしている観光客、外国人に声をかけるということをおっしゃって、声かけサポートということで、決して外国人だけじゃなくて、体の不自由な方々であったり、ちょっと道に迷っていきそうな遠くから来られたおじいさん、おばあさんであったりにも声をかけるということをおっしゃっています。

例えば、京都なんかでは、かなり昔から自分たち自身が観光地だと思っている地域ですので、それこそ道端で地図を見てまごまごしていると大体市民の方が声をかけてくれ

ますし、朝から家の前を竹ぼうきで掃くことによって、観光地のイメージを上げようという運動も昔からされていました。

そういった意味では、なかなか難しいことではあるんですけども、観光に携わるという人だったり、あるいはオリンピック・パラリンピックのボランティアであったりという、そういうその気のある方々はもちろんその気になっていただけたと思うんですけども、若干欠けていて、ぜひご参画いただきたいのは、むしろ普通にここに住み、働いている方々でありまして、その方々にこういう観光振興の実行プランがあつて、それは単なる一市民であつても、役割があるんだということを伝えるか、伝えないかというのは、2017 年はさることながら、やっぱり 2020 年に向かつてはかなりの違いが出ると思いますので、消費拡大のところに人材育成というところを書いてございますけれども、できれば、少しそういった視点で、都民、一般、お住まいになっている方、あるいは県を跨いで通勤で来られている方々が、今日観光客に出会うときにどういうことをすればいいのかということについても、もし可能であれば、少し書きとめていただいたほうが、都民の多くの皆さんが参画するという戦略になるのではないかと思いますので、あえて申し上げさせていただきました。

ほかの地域、特に人口減少の激しいところでは、皆さんもう今農業も水産業も、それからたばこ屋のおばあちゃんも、何もない人でも、子供たちもみんな観光客に対して向き合うんだということが戦略化されていますので、なかなか東京では難しいとは思いますが、そういった視点もあつてもいいのではないかというふうに思いますので、あえて発言をさせていただきました。

以上です。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

確かにあまり都民とのかかわりのあるような話がちょっと欠けていたのかなと思います。ちょっとあまり大げさなおもてなしみたいな感じではなくて、もう少し自然な形で出るようなおもてなし、ホスピタリティの精神みたいなものがもっとあると、それがリピートにも繋がるのかなというふうにも思いますので、ぜひ書き込んでいきたいと思います。

他によろしいでしょうか。

**【澤山委員】** それでは、JAL の澤山でございます。

皆様のほうから、既に宿泊施設の不足が訪都人数の目標達成、これに大きなハードルになるということでお話が出ていますけれども、私のほうは、こちらのペーパーにも書いていただいてありますけれども、まず旅館ですね。旅館というのは、この表の中にもございますけれども、稼働率がホテルと比べて随分低いのが現状です。今、東京都さんが目指されている現状の 2 倍の方を 2020 年にお迎えするということになりますと、この旅館の活用というのは、どうしても必須なのではないかというふうに思っています。

ただ、旅館につきましては、経営規模が小規模なところが多いということもあつて、独自でブランドの発信といいますか、ブランド化をしていくというところにも、なかなか

か難しい問題もあるのではないかなというふうに感じています。

つきましては、そこの部分を東京都の方、もしくは行政の方のほうでアシストをしていただいて、日本の伝統的な宿泊施設である旅館、これを世界に発信していくというのが重要ではないかと思っています。

それがもし成功すれば、日本は東京以外にも旅館がたくさんございますし、地方では特に旅館の二極化も進んでいるということがございますので、そういった部分で、日本全体の旅館の知名度アップ、こういったところに東京都が先陣を切ってやっていただけると、非常に日本全体としても、観光の魅力創造につながるのではないかなというふうに思っています。

それと、旅館のブランド強化について、宿泊の部分の問題解決をする方法として、地方連携ということがございますけれども、これにつきましては、私も航空事業者としては、訪日外国人のお客様向けの国内線の運賃、これを発売させていただいておりますので、こちらのほうもご活用いただきながら、日本の隅々まで行っていただくということが、ひいては外国人の方の東京での宿泊日数が減ることによって、より多くの方をお迎えできるのではないかなというふうに感じています。

それともう一点、観光人材のところで一言申し上げます。観光人材のところなんですけれども、今政府のほうでも観光 MBA とか、そういったような話がある中で、今、政府が観光業を基幹産業にするんだという宣言をされています。ですので、より優秀な学生の方の観光業に対する見方も変わってきているのではないかと思いますので、今がより良い人材を確保する絶好のチャンスではないかと思っています。

そういった意味でも、そういったところにも注力をしていただけると、いいのかなと感じております。

以上です。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

**【秋保委員】** 全日空の秋保と申します。

今、このまとめが非常に良くできていまして、網羅的に書いてあるので、かなり完成度が高いなと思っております。

私のほうから二、三点お話しさせていただきたいのは、東京は羽田空港という大きな空港があって、非常に施設も充実しているんですけども、オリパラに向けて、これは全体で言われていることですが、発着回数の増加も含めて、施設の充実というのも肝要なことなので、ぜひ入れてほしいと思っております。

あと、もう一つトランジットというのがありまして、我々航空会社では、羽田も成田も乗り継ぎ需要を確保しようということで、海外から羽田、成田に来て、そこからまた海外に行くというお客様の誘致に努めています。

そこで、乗り継ぎのときに一般的には 72 時間ビザなしで入れるということで、成田空港はこのようなお客様にミニツアーを準備するなどこれに対する対策も結構とられつつあるんですけども、羽田空港でもまさに多摩地区なんかにそういう時間を利用して、

海外の乗り継ぎのお客さんに行ってもらえるような、そういう仕掛けとかモデルコースをつくっていくのも、非常にいいなというふうに思っております。

あとは、観光プロモーションのところで、パリやニューヨークなど先進的な観光地との連携という部分があるんですけども、パリの場合は、今テロの問題でかなり困ってしまして、日本から業界のミッションがこの間行ったばかりなんです。その意味で双方向交流を呼びかけるには一番いい機会だと思います。

あと、JNTO さんの事務所もイタリアとかまさに欧米にできようとしているので、双方向で東京と各都市と一緒にやりましょうという呼びかけで、お客様を呼んでくるのもいいんじゃないかというふうに思っております。

あと最後に、地方との連携というのは、再三出しましたが、我々も非常に重視してまして、羽田空港における国際線と国内線の乗り継ぎについては、利便性の向上や運賃対応も含めてやっておりますので、こちらもよろしくお願いできればと思っております。

ありがとうございました。

**【安島会長】** どうもありがとうございました。

ほかに何かございますでしょうか。

それでは、どうもありがとうございました。

大体皆様からのご意見はいただけたと思いますので、審議についてはこのあたりで終わらせていただきたいと思います。

最後に、まとめといたしまして、私からも簡単に意見を申し上げたいと思います。

今回いろいろいただいたご意見は、「東京都観光産業振興実行プラン 2017」をまとめていく時に反映をさせていただきたいと思います。

今回のプランがこれまでのプランと大きく変わるの、やはり 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、観光が非常に大きな産業として位置づけられたことなのかなというふうに思っております。本当に今まで考えられないようなインバウンド客も急増しておりまして、大変ありがたいことだというふうに思っておりますが、その反面、受入体制がやはりとても追いついていないということ。

それから来ていただいた海外からの観光客が十分に満足して帰ってもらえるようなコンテンツ、資源の開発というものも進めていかないと、長続きしないのではないかとこのうふうな気がしております。

都知事の期待も大変大きいようでございまして、国の目標をさらに上回るような目標値、入込観光客と、それから消費額等、意欲的な目標値が設定をされております。

ぜひ、いろいろな施策を通じて、これを実現する方向で頑張っていきたいというふうに思いますが、特に課題となっているのは、宿泊の問題が多くいろいろ提言をいただきました。あるいは民泊のような、少し議論が必要なものもございまして。

それから、MICE に対しても非常に大きな、皆様から期待する意見を頂戴いたしました。特に MICE 等については、まだまだユニークベニューというようなものを充実させていたり、あるいは今回動き出す MICE 連携推進協議会の役割というものにも、大きく期待を

したいと思っております。

それから、東京都庁内の縦割りを解消して、連携が必要だという意見がたくさんいただきました。そのほかにも国やあるいは区、民間事業者との連携、あるいは地方との連携というのも非常に大事だというご意見を頂戴をいたしました。

これまでも東京は日本の、あるいは首都圏の玄関口としての自覚を持って、ほかの国も東京に来た観光客を送るということについて、そういうつもりでプランをつくってまいりましたけれども、これからもその役割はますます強くなってくると思いますので、ぜひ東京がそういう役割を自覚しているということをほかの自治体にもぜひ理解していただいて、一層そういう連携関係を進めていけたらというふうに思っております。

それから、少しまだ IR については、これからということでして、まだまだ議論しておりません。ただ、これは避けて通ることができないことだと思いますので、今後これについての議論も深めていきたいと思います。

少し抜けたこともあるかと思いますが、これを私のまとめにさせていただきたいと思います。

本日は皆様から様々なご意見を頂戴いたしました。

既に中間のまとめに掲載されている部分も多々あったかと思います。

先ほど、事務局から説明があったとおり、必要に応じて、本日の議論を年度内に公表する最終版に反映することになってございますが、本審議会の意見の集約につきましては、時間の関係もございますので会長の私にご一任いただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」)

ありがとうございます。

それでは、私のほうで取りまとめをさせていただきたいと思います。

それでは、事務局のほうにお返しをいたしますので、連絡事項がありましたらお願いをいたします。

**【坂本観光部長】** 皆様、本当に今日はどうもありがとうございました。

本日頂戴いたしましたご意見を踏まえまして、最終版の策定に取り組んでまいりたいと考えてございます。

なお、次回以降の会議でございますが、開催などが決まりましたら、別途ご連絡をさせていただきたいと考えておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

**【安島会長】** 最後に、藤田局長から一言お願いいたします。

**【藤田産業労働局長】** 産業労働局長の藤田でございます。

ただいま会長のほうから総括ということで、先生方のご意見をまとめていただきました、本当にありがとうございます。それから、各委員の皆様には本当に年末のお忙しい中、今回のプランの中間のまとめ、事前にご一読いただきまして、本当に貴重なご意見、それぞれの日ごろ取り組まれております立場、それからその立場を越えて、非常に広い視点からのご意見を頂戴いたしました。

本当に観光というのは何のためなのかという、本当に真髓に迫るご意見、それから多摩であるとか、いろんな市内連携の話もありましたし、都民とのかかわりというのも大変重要でございます。

これらは本当にいただいたご意見は、新たな目標を達成していくためには、どれもこれも全部つながっているお話だというふうに私ども受けとめてございます。

本当にいただきましたご意見を参考にさせていただきまして、年度内に最終的なプランを取りまとめたいというふうに考えてございます。

各委員の先生方には本当に今後ともご指導、ご鞭撻のほうをよろしくお願いしたいと思ひまして、お礼のご挨拶にかえさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

**【安島会長】** 以上をもちまして、本日の審議会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

午前 11 時 40 分閉会